

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201916		
法人名	医療法人社団醫光会		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	高崎市下佐野町752-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成22年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、楽しみながら、音楽を取り入れた筋力体操、散歩を続けています。メリハリのある生活を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の健康維持に対して音楽を取り入れ楽しく動ける工夫を行っている。食前の嚥下体操、リハビリ体操など楽しみながら体を動かし健康維持を図っている。レクリエーションとして行っている「はり絵」はその見事さが地域の人を動かし公民館での展示が実現した。地域の人達との交流のきっかけと利用者の自信に繋がった。また排泄の自立を目指しておりトイレでの排泄を行っている。昼間はオムツの人がいない。介護の基本的な支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割について職員会議で話し合い、開設時に作成した理念を見直し、地域との関係性を盛り込んだ新たな理念も作り上げている	職員会議で理念を作成し目に付くところに掲示されている。会議の時などに理念に立ち返り職員と共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議開催により、区長や民生委員を通して地域の方がたとも交流が出来るようになってきている。秋祭り等のホームの行事には、地域に方の参加を呼びかけ交流の機会を持っている。	婦人会より情報をもらい公民館に折り紙作品を展示したり、職員が講師としてミニ研修会に出向いたりしている。秋祭りには地域の人に来てもらい交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催により、区長や民生委員を通して地域の方がたとも交流が出来るようになってきている。秋祭り等のホームの行事には、地域に方の参加を呼びかけ交流の機会を持っている。当して		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、ホームからは、利用者の様子や行事報告議案提出等を行ない意見交換をしている。家族にも出席をおねがいしている。	2ヶ月に一度奇数月に行われている。家族、区長、民生委員、市、利用者が参加している。施設から職員の異動、外部評価、実地指導の報告などされている。民生委員より提案があり利用者の作品が公民館に飾られる事が実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には社会福祉課の担当が出席し、意見交換を行っている。手続き代行や、更新手続きの為の、ケアマネージャーや管理者が市役所を訪れ相談等をしている。	管理者は事故報告や状況報告を市に出向いて行っている。又認知症サポーター研修、長寿社会課の研修などに参加している。ケアマネージャーは更新申請支援など市と情報の交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には鍵をかけず、誰でも、気軽に出入りし易い様心がけている、また職員も拘束の研修会に参加し、身体拘束、言葉の拘束をしない様取り組んでいる。	法人自体で身体拘束ゼロを目指している。職員は入職時に誓約し、入職後も研修を行っている。鍵は掛けられていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、研修会で学びホームでの、虐待防止に取り組んでいる、また利用者が自宅での虐待がないか注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年者後見が必要なケースでは、管理者が一人で対応する為、職員が支援できる体制が整っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等の際には、十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに苦情受付箱を設置し家族来訪時には、話しやすい雰囲気を作っている。年2回の家族会を開催し家族との会話の中から、意見や苦情を引き出すよう努めている。	家族の本音の気持ちを聞きたいと管理者はアンケートなどを行い意見を吸い上げる努力をしている。家族から「はさみ」を使わせたいという希望に対して、危険が無いよう配慮して使用を認めている。家族の意見を聞く姿勢がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時、毎月開催の職員会議時に意見や提案を出し合い、全職員が理念を共有して実践に取り組んでいる。	職員会議の時など職員からの意見を聞く努力をしている。また法人での親睦会がありその時にも意見など聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員に対し気配りを行い勤務しやすい環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に行われる研修会に参加して、内容について報告書を提出、職員会議等で意見交換をする場を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入しておりグループホーム大会に参加し、地域の同業者との交流の機会を持ってサービスの質の向上に反映させている。グループホーム大会では、体験発表をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の悩みや不安、要望に耳を傾け、理解をし、本人と信頼関係が築ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安な事、要望等気安く話ができる様、声かけをして、年2回の家族会を開催して意見要望を発言できる機会を設け、良い関係が築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思い、状況等を確認し改善に向けて支援の提案をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は同じ家族の一員との考えで共に過ごし学び支えあう関係を大切にしている。人生の先輩としての利用者から、ことわざ、昔の習慣、戦争の話、歌、など教えてもらう事が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日ごろの状態をこまめに報告、相談するとともに来訪時は、御本人と御家族の潤滑油になるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関には鍵をかける、オープンにしている。誰でも気軽に来所して頂ける様、玄関先と玄関入ってすぐのところに季節の花や壁かざりをして、気軽に入り易い雰囲気作りを心がけている。来客のときはプライバシーに配慮している。	近所の人が入所があった時は散歩時などに立ち寄りしたりしている。友人の面会などは居室で話しをしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで利用者同士が関わり合える用テーブル席を全員の顔が見え、話ができる様にしました。また、居室で一人で過ごす時間が長くない様声かけをして、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られても、利用者と遊びに行ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制になっており、個人別に得た情報は記録や話し合いで全員で共有している。日ごろの言葉の言動と観察と声かけを多くすることで利用者の思いや意向を聞きだすよう努めています。	日ごろの会話の中から職員は意向の確認を行っている。言葉の出ない人からはジェスチャーなどを交えて確認をしている。家族の情報を基に年齢や個性などを考慮した意向の確認をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等から意見や要望を聴いている職員が寄り添い、自然に馴染みやすい雰囲気		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の思いや体調等に気配りしながら一人一人の希望に沿った対応をしている。起床時間やテレビ鑑賞、散歩、等自由な時間を過ごせる様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員とケアマネージャーが本人、家族の気持ち、意見、要望等を聴き職員会議でカンファレンスを行って本人、家族の気持ちを反映させた介護計画を作成している。	3ヶ月の見直しと随時の見直しを行っている。毎月のモニタリングを行い見直しの参考にしている。家族からも意見を聞き計画の確認をとっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のモニタリングと3ヶ月に1回の介護計画の見直しを行っているが、状態の変化に伴い随時、現状に即した見直しを行って介護計画を立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や要望に応じて通院支援、買物同行等柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さん、区長さんとのふれあいがありますがもっと地域の活動に参加出来る様支援します。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の希望に基づき、適切な医療を受けられるように支援しています。	本人、家族の希望のかかりつけ医となっている。協力病院への変更もできる。週1回協力病院より往診がある。緊急時や家族受診支援ができないときはホームで支援している。結果は家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師さんにノート等を使用し、情報、気づきを伝えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係との情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針とあり方について、本人、家族等話し合い事業所で出来る事を説明し共有しながら取り組んでいます。	グループホームの「重度化、終末期対応指針」が作成されている。看取りはまだ無いが24時間の訪問看護対応、家族の協力体制など指針は職員間で共有されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成して勉強し、講習会や訓練を定期的に行い事故発生時に対応でき、実践力を見に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成され法人として年2回消防署立会いと自主訓練を昼夜想定して避難訓練を行っている。運営推進会議等を通じて近隣の方々には、協力を依頼している。	年2回法人と一緒に消防署立会いの訓練を行っている。その他1回自主訓練を行っている。夜間想定訓練も行っている。近隣への協力依頼を行っているが連絡網は無い。備蓄はまだしていない。	近隣の協力体制作りと連絡網の作成、備蓄の検討などをお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の入所時秘密保持に関する契約書を交わしている。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない様声かけ(特にトイレ誘導時)や対応に注意を払っている。個人情報や記録の取り扱いについては徹底させている。又家族等の面会時の会話にも配慮している	管理者は日常的に、排泄時の声掛け、記録の書き方、面会簿の個人別などを職員に指導を行っている。職員は入職時法人との間に誓約書を取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とコミュニケーションを図りメッセージやサインを読み取り、本人の思いや意見が気軽に言えるような雰囲気を作ったり働きかけたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自発的にその人らしい暮らしを送れる様自己決定権を尊重しその日をどのように過ごしたいか希望に沿った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服も本人に選んでいただき、外出時には声かけをして着替えたり、髪型も本人の意見を取り入れて理美容をしています。その人らしいお洒落が出来る様支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立により職員と一緒に同じものを食べている。又手作りおやつも希望を取り入れ職員と一緒に作ったり、後片付けをしたり家庭的な雰囲気です。食事が楽しいものになる様工夫しています。	月に2回出前を取ることができる。希望のメニューを取り入れている。PALシステムを利用し農産物の少ない食材にこだわっている。利用者も後片付けなどに参加している。職員は利用者と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回体重測定を行いバランス等を考慮し食事を提供しています。食事、水分量は記録に残し健康管理を支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔を保持しています。又毎晩、義歯等の除菌を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンを理解し排泄表のチェックを怠らず利用者にプライバシーを尊重し声かけや職員間での申し送りによって、個々に沿った支援を心掛けています。	排泄パターンを用いて支援を行っている。利用者が排泄をしたい気持ちを大切にされた支援がされている。昼間のオムツ使用者はいない。個別の支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、その他の乳製品、食物繊維の多い野菜、海藻類等バランスの取れた食事を心掛け毎日運動をして腸の働きを助ける様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとり希望や好みに配慮しぬる湯、熱湯、長湯等要望に合わせての対応で入浴が楽しいものになるよう努力している。又季節でゆず湯、菖蒲湯、温泉の湯、薬湯等を楽しんでいただいています。	入浴は火曜日、木曜日、土曜日の午後入浴をしている。入浴出来なかった場合は次の日に入浴をしている。シャワー浴もあり、あつ湯、ぬる湯、ハーブ湯、地域の温泉湯などの希望を聞いている。	週3回入浴日が決められているが、希望を聞き毎日入浴できる体勢の整備をお願いしたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて居室にて休息したりホールにてテレビを観たり安心して静かに過ごせる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者のファイルに処方箋を添付いつでも見られるようにしている。薬の目的や副作用、用法、用量についても理解してる。服薬は職員が支援し症状の変化の確認に努め職員全員が把握出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の要望や希望に応じた一人ひとりのペースによって、食器拭き、お掃除、洗濯物を干したり、たたんだり、はり絵、塗り絵、外出など、毎日の変化や楽しみがあるように職員一同で協力、支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望に応じて日常的に散歩、買物、外食、ドライブ、季節の花見、果物狩り、初詣、イルミネーション見学など利用者が戸外に出て楽しめる様、積極的に支援しています。	暑かった8月は別にして朝天気がよければ10時～30分程度、散歩を行っている。ドライブ、外出など積極的に外出支援がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時々、利用者、職員一同で外出する事によって、買物や外食をして一人ひとりが楽しみ希望におうじて過ごせる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら家族や大切な人への電話、手紙を希望される時に応じてやりとりが出来る様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、ホール各所に季節の草花や、利用者の作品、写真等が飾っており、利用者が居心地良く過ごせる様に配慮をしたり、家族の方が面会にこられた時安心される様に工夫をしている。	各所に生花が飾られ、香がたかれ、和やかな雰囲気がある。壁には写真や作品が飾られ楽しんだ記憶を思い出させている。高い天井から自然光が差し込み明るく開放感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて、気のあった利用者同士で談話されたり、ソファにゆっくり座って好きなテレビ番組を見られるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのタンス、鏡台、家族の写真、利用者の作品、絵画、人形、時計等が持ち込まれており利用者が居心地良く過ごせる様個別性のある居室作りが工夫してある。	居室は温度管理されており快適に過ごせるよう工夫されている。寝具は備え付けられているが、持ち込みは自由となっている。位牌、写真、椅子、テーブル、作品、折り紙など個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部(廊下、食堂、浴室、トイレ)等が安全、そして自立した生活が送れる様に、問題があれば、職員一同で話し合いをして、改善をする工夫をしている。		